

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2012年11月9日
【四半期会計期間】	第42期第2四半期（自 2012年7月1日 至 2012年9月30日）
【会社名】	株式会社サンデーサン
【英訳名】	Sunday's Sun INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 村田 國樹
【本店の所在の場所】	東京都港区港南2丁目18番1号
【電話番号】	（03）6833－8833
【事務連絡者氏名】	管理部 部長 戸田 慎也
【最寄りの連絡場所】	東京都港区港南2丁目18番1号
【電話番号】	（03）6833－8833
【事務連絡者氏名】	管理部 部長 戸田 慎也
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第41期 第2四半期 累計期間	第42期 第2四半期 累計期間	第41期
会計期間	自 2011年4月1日 至 2011年9月30日	自 2012年4月1日 至 2012年9月30日	自 2011年4月1日 至 2012年3月31日
売上高 (千円)	8,783,083	8,647,382	17,215,589
経常利益 (千円)	423,633	524,937	649,503
四半期(当期)純利益 (千円)	374,928	428,647	628,997
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	—	—	—
資本金 (千円)	2,958,080	2,958,080	2,958,080
発行済株式総数 (千株)	16,114	16,114	16,114
純資産額 (千円)	3,265,533	3,942,723	3,525,192
総資産額 (千円)	12,482,872	11,883,897	11,995,715
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	23.38	26.73	39.22
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
1株当たり配当額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	26.2	33.2	29.4
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	744,095	854,185	1,627,124
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△199,551	△235,931	△387,512
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△1,218,642	△485,868	△2,162,155
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	522,950	406,891	274,506

回次	第41期 第2四半期 会計期間	第42期 第2四半期 会計期間
会計期間	自 2011年7月1日 至 2011年9月30日	自 2012年7月1日 至 2012年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	16.10	17.85

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

1. 経営成績の分析

当第2四半期累計期間（2012年4月1日から2012年9月30日まで）におけるわが国経済は、緩やかな景気回復の兆しが見られたものの、欧州債務危機を背景とした世界景気のさらなる下振れ懸念が高まり、依然として先行き不透明な状況が続きました。

外食産業におきましては、個人消費が低調に推移する中、米をはじめとする原材料価格が上昇するなど、厳しい経営環境が続いております。

このような状況のもと、当社は、「おいしい料理」「心のこもったサービス」「清潔なお店」で、お客様に満足していただくことを基本に、「アメニティレストラン＝居心地の良いレストラン」づくりに全力で取り組んでまいりました。

主力業態であるジョリーパスタにおきましては、「パスタならジョリーパスタ」をテーマに、パスタ専門店の魅力をよりお客様へアピール出来るよう、40種類を超える豊富なパスタメニューの更なる充実を図るとともに、ベビーリーフなど8種の新鮮野菜を彩りよく仕上げた旬のこだわりフレッシュサラダや、古くからワインの名醸地として知られるイタリア中部トスカーナ州のワインを取り揃えるなど、イタリアンの食卓を一際引き立たせる豊富な品揃えで、商品強化に取り組んでまいりました。

また、効果的な販売促進にも積極的に取り組み、売上高の拡大を図った結果、当第2四半期累計期間の既存店売上高は、前年同期比102.2%と堅調に推移し増収を達成いたしました。

当第2四半期累計期間末の店舗数につきましては、前期末より増減なく、ジョリーパスタ217店舗、フラカッソ23店舗、その他6店舗の合計246店舗となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高86億47百万円（前年同期比1.5%減）、営業利益5億25百万円（前年同期比16.5%増）、経常利益5億24百万円（前年同期比23.9%増）、四半期純利益4億28百万円（前年同期比14.3%増）となりました。

2. 財政状態の分析

当第2四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末と比較して、主に現金及び預金の増加1億32百万円、敷金・差入保証金の減少1億7百万円等により、118億83百万円となりました。

負債は、前事業年度末と比較して、借入金の減少2億75百万円等により、79億41百万円となりました。

純資産は、前事業年度末と比較して、四半期純利益4億28百万円等により、39億42百万円となりました。

3. キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は4億6百万円となりました。当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により増加した資金は8億54百万円となりました。これは主に、税引前四半期純利益5億19百万円を計上したこと及び減価償却費3億79百万円によるものであり、前第2四半期累計期間に比べ1億10百万円の増加となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により減少した資金は2億35百万円となりました。これは主に有形、無形固定資産の取得による支出3億43百万円によるものであり、前第2四半期累計期間に比べ36百万円の支出の増加となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により減少した資金は4億85百万円となりました。これは主に、短期借入金の純増加額49億74百万円、長期借入金の返済による支出52億50百万円によるものであり、前第2四半期累計期間に比べ7億32百万円の支出の減少となりました。

4. 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

5. 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	45,000,000
計	45,000,000

②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数（株） (2012年9月30日)	提出日現在発行数（株） (2012年11月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	16,114,000	16,114,000	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数は100株
計	16,114,000	16,114,000	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2012年7月1日～ 2012年9月30日	—	16,114,000	—	2,958,080	—	330,768

(6) 【大株主の状況】

2012年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合 (%)
株式会社ゼンショーホールディングス	東京都港区港南 2-18-1	10,351	64.24
トヨタカローラ山口株式会社	山口県周南市新地 1-6-1	544	3.38
株式会社山口銀行	山口県下関市竹崎町 4-2-36	387	2.41
アサヒビール株式会社	東京都墨田区吾妻橋 1-23-1	180	1.12
サントリービア&スピリッツ株式会社	東京都港区台場 2-3-3	179	1.11
サンデーサン社員持株会	東京都港区港南 2-18-1	158	0.99
日本興亜損害保険株式会社	東京都千代田区霞が関 3-7-3	142	0.88
株式会社中国銀行	岡山県岡山市北区丸の内 1-15-20	113	0.71
株式会社白菱	広島県広島市西区井口 5-31-4	101	0.63
株式会社明治	東京都江東区新砂 1-2-10	100	0.62
計	—	12,258	76.08

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2012年9月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 75,300	—	権利内容に何ら限定のない当社 における標準となる株式
完全議決権株式 (その他)	普通株式 16,038,000	160,380	同上
単元未満株式	普通株式 700	—	同上
発行済株式総数	16,114,000	—	—
総株主の議決権	—	160,380	—

(注) 単元未満株式数には、当社所有の自己株式79株が含まれております。

② 【自己株式等】

2012年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合 (%)
(自己保有株式) 株式会社 サンデーサン	東京都港区港南 2-18-1	75,300	—	75,300	0.47
計	—	75,300	—	75,300	0.47

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間（2012年7月1日から2012年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（2012年4月1日から2012年9月30日まで）に係る四半期財務諸表について、あらた監査法人により四半期レビューを受けております。

3 四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2012年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2012年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	274,506	406,891
売掛金	113,769	64,671
商品及び製品	52,931	8,417
原材料及び貯蔵品	135,301	126,505
その他	665,717	676,413
貸倒引当金	△443	△224
流動資産合計	1,241,782	1,282,674
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2,683,929	2,821,203
土地	2,986,997	2,986,997
その他（純額）	1,611,619	1,468,233
有形固定資産合計	7,282,545	7,276,434
無形固定資産	102,571	89,652
投資その他の資産		
敷金	2,149,187	2,146,437
その他	1,219,628	1,088,698
投資その他の資産合計	3,368,815	3,235,135
固定資産合計	10,753,932	10,601,223
資産合計	11,995,715	11,883,897
負債の部		
流動負債		
買掛金	483,834	438,330
関係会社短期借入金	181,757	5,155,929
1年内返済予定の長期借入金	307,500	182,500
1年内返済予定の関係会社長期借入金	1,360,000	—
未払金	249,290	227,250
未払費用	477,228	445,444
未払法人税等	129,893	110,002
賞与引当金	109,358	116,264
その他	520,953	483,842
流動負債合計	3,819,816	7,159,564
固定負債		
長期借入金	135,000	75,000
関係会社長期借入金	3,705,000	—
資産除去債務	73,548	74,087
その他	737,158	632,521
固定負債合計	4,650,707	781,609
負債合計	8,470,523	7,941,173

(単位：千円)

	前事業年度 (2012年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2012年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,958,080	2,958,080
資本剰余金	330,768	330,768
利益剰余金	271,179	699,826
自己株式	△44,445	△44,445
株主資本合計	3,515,582	3,944,229
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	9,609	△1,505
評価・換算差額等合計	9,609	△1,505
純資産合計	3,525,192	3,942,723
負債純資産合計	11,995,715	11,883,897

(2) 【四半期損益計算書】
【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2011年4月1日 至 2011年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)
売上高	8,783,083	8,647,382
売上原価	2,652,890	2,471,011
売上総利益	6,130,193	6,176,370
販売費及び一般管理費	※1 5,679,121	※1 5,650,963
営業利益	451,072	525,406
営業外収益		
受取利息	8,353	6,938
受取配当金	2,686	2,420
貸貸収入	72,683	88,526
貸倒引当金戻入額	7	219
その他	2,578	6,639
営業外収益合計	86,309	104,744
営業外費用		
支払利息	65,887	48,066
貸貸収入原価	47,294	56,626
その他	565	520
営業外費用合計	113,747	105,214
経常利益	423,633	524,937
特別利益		
会員権売却益	6,550	—
その他	315	—
特別利益合計	6,865	—
特別損失		
固定資産除却損	1,004	801
貸貸借契約解約損	—	4,300
特別損失合計	1,004	5,101
税引前四半期純利益	429,494	519,836
法人税、住民税及び事業税	54,566	89,755
法人税等調整額	—	1,433
法人税等合計	54,566	91,189
四半期純利益	374,928	428,647

(3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2011年4月1日 至 2011年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	429,494	519,836
減価償却費	375,445	379,123
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△7	△219
賞与引当金の増減額 (△は減少)	25,689	6,905
有形及び無形固定資産除却損	870	801
受取利息及び受取配当金	△11,040	△9,359
支払利息	65,887	48,066
売上債権の増減額 (△は増加)	△4,624	49,098
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△5,879	53,310
仕入債務の増減額 (△は減少)	5,974	△45,503
未払人件費の増減額 (△は減少)	△25,070	△45,580
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△9,427	△44,548
その他	68,039	80,102
小計	915,353	992,031
利息及び配当金の受取額	3,083	2,486
利息の支払額	△65,770	△32,629
法人税等の支払額	△108,572	△107,703
営業活動によるキャッシュ・フロー	744,095	854,185
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形及び無形固定資産の取得による支出	△261,781	△343,968
有形及び無形固定資産の売却による収入	45,258	97,524
投資有価証券の取得による支出	△70	△74
敷金及び保証金の差入による支出	△9	—
敷金及び保証金の回収による収入	17,051	10,586
投資活動によるキャッシュ・フロー	△199,551	△235,931
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	4,974,172
長期借入金の返済による支出	△1,040,000	△5,250,000
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△178,642	△210,041
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,218,642	△485,868
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△674,098	132,385
現金及び現金同等物の期首残高	1,197,049	274,506
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 522,950	※1 406,891

【注記事項】

(四半期損益計算書関係)

※ 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第 2 四半期累計期間 (自 2011年 4 月 1 日 至 2011年 9 月30日)	当第 2 四半期累計期間 (自 2012年 4 月 1 日 至 2012年 9 月30日)
給与及び賞与	2,127,905千円	2,124,934千円
賃借料	1,178,127	1,149,103
賞与引当金繰入額	106,450	116,264

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、下記のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 2011年4月1日 至 2011年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)
現金及び預金勘定	482,979千円	406,891千円
現金同等物に含まれる関係会社短期貸付金 (注)	39,971	—
現金及び現金同等物	522,950	406,891

(注) 株式会社ゼンショーホールディングスがグループ各社に提供するキャッシュ・マネジメント・システムによるものであります。

(株主資本等関係)

I 前第2四半期累計期間（自 2011年4月1日 至 2011年9月30日）

1 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当事業年度の開始の日から当四半期累計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

2 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

II 当第2四半期累計期間（自 2012年4月1日 至 2012年9月30日）

1 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当事業年度の開始の日から当四半期累計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

2 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間（自 2011年4月1日 至 2011年9月30日）

当社は、外食事業単一のセグメントであるため、記載を省略しております。

II 当第2四半期累計期間（自 2012年4月1日 至 2012年9月30日）

当社は、外食事業単一のセグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 2011年4月1日 至 2011年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	23円38銭	26円73銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	374,928	428,647
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	374,928	428,647
普通株式の期中平均株式数(株)	16,038,713	16,038,621

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2012年11月 8 日

株式会社サンデーサン
取締役会 御中

あらた監査法人

指定社員 公認会計士 仲 澤 孝 宏
業務執行社員

指定社員 公認会計士 加 藤 真 美
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社サンデーサンの2012年4月1日から2013年3月31日までの第42期事業年度の第2四半期会計期間（2012年7月1日から2012年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（2012年4月1日から2012年9月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社サンデーサンの2012年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。